



東山動植物園再生プラン

新基本計画

概要版

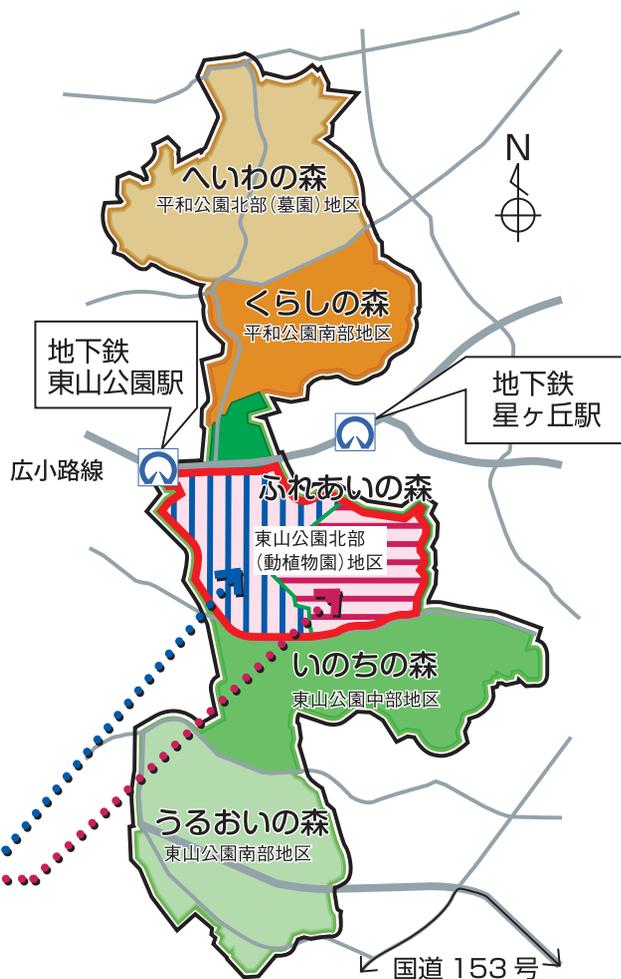


2025年（令和7年）3月改訂

名古屋市

ようこそ、進化し続ける「歴史と文化に育まれた人と自然のミュージアム」へ！

本市は、2006年（平成18年）6月、動植物園の役割や使命の変化を背景に、「人と自然をつなぐ懸け橋へ」をテーマに定めた基本構想を、また、2007年（平成19年）6月には、展示等の基本的な考え方や施設整備の方針などを示した基本計画を策定しました。2010年（平成22年）5月には、その後の社会情勢の変化などに対応するとともに、新たに「現存する歴史文化的施設や樹木、景観に配慮する。」「市民により一層楽しんでいただく。」といった2つの視点を加え、新基本計画を取りまとめました。



基本計画の目標

人と自然をつなぐ懸け橋へ

- 多様な楽しみを提供する。
- 自然のすばらしさや大切さを体験、体感する。

- ・来園者が主役となった参加体験
- ・ホスピタリティの向上と環境整備
- ・COP10を契機とした生物多様性のフィールド など

動植物園の 4つの役割

動植物を見て楽しむ

楽しみながら学ぶ

野生生物を守る

調査研究を行う

東山の森

市民参加の森づくり

動植物を見て楽しむ ～森の鼓動が聞こえます。歴史と文化がおりなすドラマに感動します。～

1937年（昭和12年）の開園以来、市民の憩いの場として親しまれてきた東山が、今生まれ変わろうとしています。開園当時の建造物や大きく育った樹木、都会の中に残る豊かな自然などの今ある魅力を大切にしながら、もっと身近に、もっと楽しく自然とふれあうことのできる「歴史と文化に育まれた人と自然のミュージアム」になることを目指します。



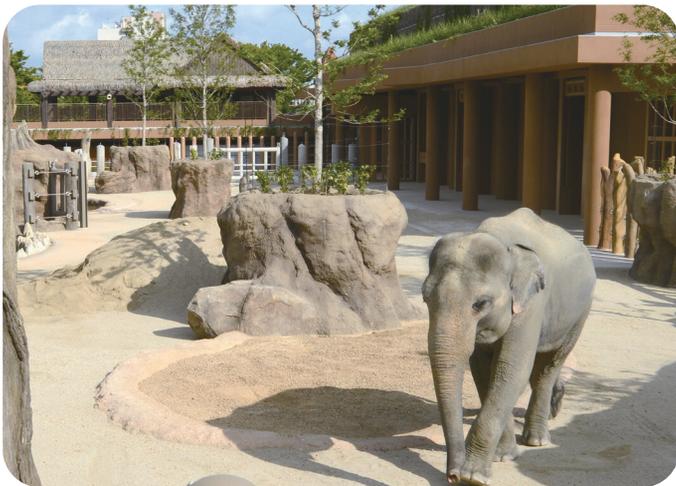
① 正門エントランスゾーン

開園当初からの正門柱・噴水・樹木・胡蝶池を生かし、カフェや物販・休憩スペースなどのにぎわいのある快適な空間や、動物の展示状況等の情報サービスなどを提供します。



③ アジアゾーン（アジアの熱帯雨林エリア）

多様な動物と植物が共存共栄する熱帯雨林の動物（スマトラトラ、オランウータン）を、同じエリアで見ることができます。（2023年にトラ・オランウータン舎がオープンしました。）



④ アジアゾーン（アジアの高地エリア）

高低差のある斜面地形を活かした屋外運動場で、レッサーパンダが樹上生活を楽しむ姿や、野生に近い動きなどを様々な角度から見ていただけます。

（2021年にレッサーパンダ舎がオープンしました。）



② アジアゾーン（アジアゾウエリア）

アジアゾウが群れで生活する姿を見ていただけます。また、ゾウの訓練を通して人と動物の密接な関係を知ることや、「ゾウ列車の物語」などを情報資料コーナーで学ぶことができます。

（2013年にアジアゾウ舎（ゾウジウム）がオープンしました。）



⑤ アジアゾーン（にぎわいのコーナー）

冷暖房完備の施設の中で、いろいろな食事が楽しめます。屋根付きの休憩所も併設し、雨の日でも安心です。また、園内の情報サービスも確認できます。

（2016年にフードコート（ゾアシス）、カフェ・物販施設（ズーボゲート）がオープンしました。）



⑥オセアニアゾーン
 コアラ、カンガルー、エミュー、ウォンバットなどの動物を間近で観察することで、独自の進化をとげたオセアニアの動物の形態的特徴(有袋類等)を知ることができます。



⑦海洋ゾーン
 海の生活に特化した動物の運動能力を楽しみながら学べるよう、地形の高低差を生かして地上と水中の様子を見ていただけます。



⑧上池ゾーン(にぎわいのコーナー)
 湖畔の落ち着いた雰囲気の中で、豊かな自然の景観を眺めながら、飲食が楽しめます。(2013年にカフェ・物販施設(ひがしやまパレット上池)がオープンしました。)



⑨北園門・遊園地ゾーンなど
 遊園地やキッズランド、ボートなどは、子どもたちなどに「楽しさ」を提供します。



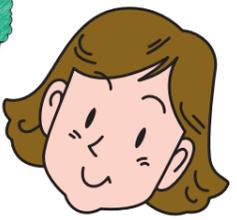
⑩アフリカゾーン(アフリカの森エリア)
 多様な霊長類や森林性の草食動物を見ていただけます。また、チンパンジーが道具を使う様子などから、知能の高さを知ることができます。(2018年にゴリラ・チンパンジー舎がオープンしました。)



⑫アフリカゾーン(サバンナエリア)
 草を食べるシマウマやカバ、木の葉を食べるキリンなど、草食動物の棲み分けと、その草食動物を捕食するライオンなどの肉食動物を見ていただけます。



⑬魚類、両生・ハ虫類ゾーン
 メダカ館(魚類)では、田んぼの風景を再現し、そこに生活するニホンメダカの生態などを展示します。自然動物館(両生・ハ虫類)では、陸上のカメとしては最大のゾウガメなどを間近で体感できます。(2010年に世界のメダカ館がリニューアルオープン、ゾウガメ舎がオープンしました。)



2023年にジャガー舎がオープンしました。



2014年に、北アメリカエリアが完成しました。



2010年にニホンザル舎がリニューアルオープンしました。



2014年にツシマヤマネコ舎がオープンしました。

⑩アメリカゾーン
 積極的な保護策により絶滅の危機から救われた、北米大陸のアメリカバイソン、ハクトウワシ、シンリンオオカミと、カピバラ、オオアリクイ、ヤブイヌ、ジャガーなどの南米大陸の多様な動物を見ていただけます。

⑭日本ゾーン
 奥山の生息環境を模し、生き生きと活動するニホンザルを見ていただく他、四季折々の花と緑の中で、ヤギやモルモットなどの生きた動物にふれあうことのできるエリアを設けます。



⑬世界の植物と文化ゾーン

かつて「東洋一の水晶宮」と謳われ、国の重要文化財である温室をその周辺施設を含めて修復し、地形の高低差を生かした立体的な幾何学式の洋風庭園と共に、美しい景色の中でここでしか味わえない特別なひと時を提供します。
(2021年に名古屋市東山植物園温室前館及び洋風庭園がリニューアルオープンしました。)

(にぎわいのコーナー)

2013年にレストラン（ガーデンテラス東山）がオープンしました。



⑭日本の植物と文化ゾーン

「万葉集」「日本庭園」「桜」「竹林」「紅葉」といった日本文化のキーワードに沿って、万葉の昔から現代まで、日本人が植物との関わりの中で育んできた文化を紹介します。
(2009年に桜の回廊がオープンしました。)



2024年にお花畑がリニューアルオープンしました。



⑯日本の里ゾーン

森とくらしに焦点を当て、木曾、飛騨、三河遠州のモデル林や湿地などから、東海地方特有の景観をつくります。また、季節ごとに、田植え、稲刈り、餅つきなどの体験が出来るイベントを実施します。

2009年に東海モデル林がオープンしました。



2009年に地域の自然学習林がオープンしました。

⑰花と緑のふれあいゾーン

ビオトープとして復元したこの地域の自然とふれあい、学ぶことができます。お花畑コーナーでは、市民や企業のパートナーシップによるガーデニングコーナーやワゴン販売等で潤いのひと時を提供します。



⑱星が丘門エントランスゾーン

市民の皆さんがデザインする立体花壇・イングリッシュガーデンやオープンカフェなどが来園者をお出迎えます。

多様な参加の方向性

市民参加・協働

市民参加を積極的に募るため、市民が利用しやすく魅力ある施設づくりも目指します。市民と目的を分かち合い、興味や意欲に応じて参加でき、ステップアップが図れるよう段階的な参加の仕組みをつくります。また、個人としてあるいは団体としてなど、参加の形態が様々であることに配慮し、多様な受け皿を用意します。



■段階的な参加の仕組み

知る

誰もが気軽に参加できるイベント、ガイドツアー、などを行います。

考える

協働でボランティア活動などを進めていくために必要な講座や実習などを行います。

行動する

園のガイドや保全活動、イベントなど、ボランティアとして参加できる機会を設けます。

星が丘広場

市民参加型の広場と位置付け、市民・団体・企業等の協力により盛り上げていく仕組みをつくります。また、近隣大学の学園祭との連携も検討します。

企業参画

動植物園と企業の活動や取組みが、相乗効果を発揮できるような場を設け、そこに協賛等を受けられるようにするとともに、トップセールスを強化し、企業参画の獲得に努める。

■企業参画のコンテンツ

分類	主な事例
寄付	ゾウ、コアラ、キリン等のエサ代、施設整備などへの寄付
協賛	ナイトZOO&GARDEN等イベントのスポンサー 獣舎やトイレ等の施設に対する自社製品の提供 個別施設のネーミングライツ 企業のWebサイトや広報誌での特集
広告	Webサイト上のバナー広告 園内案内マップへの広告
事業参加	企業が企画、費用負担を行う独自の展示やイベントの実施
営業参加	飲食施設、物販施設の出店
人的支援	企業やNPOによる人材の派遣



スケジュール

新基本計画では、整備期間を2010年度(平成22年度)から2036年度(令和18年度)(開園100周年)までの27年間を想定し、原則としてゾーンやエリア毎に整備していきます。また、全体事業費については、約420億円を想定しており、事業の遂行にあたっては、概ね5年毎に事業計画の見直しを行っていきます。

にぎわいのある快適な園内空間の創出

これからの東山動植物園には、開園後 80 年以上の歴史を有する場所としての「格調と落ち着き」と、新たな歴史をこれからも積み重ねていこうとする「活力」の両方が必要と考えており、「歴史」「にぎわい」「快適性」をキーワードにした園内空間づくりを進めていきます。また、市民の声をもとに日々サービスの改善に心がけていきます。

(1) 歴史を大切に作る空間づくり

- ・正門から噴水のエリア
 - ・古代池と恐竜像
 - ・ライオン舎
 - ・合掌造りの家
 - ・トウカエデ並木
 - ・ゾウ列車のモニュメント
 - ・動物慰霊碑と園最大のクスノキ
 - ・温室（国指定重要文化財）
 - ・武家屋敷門
 - ・東山モノレール
- などの保全と活用を図ります。



噴水とケヤキ（正門付近）

(2) 楽しみのある空間づくり

素敵な飲食環境で多彩なメニューを提供するとともに、東山でしか食べられない・買えないものも取り揃え、多様なニーズにお応えできるよう取り組みます。春の花見、夏のナイトZOO&GARDEN、秋の紅葉などイベントも充実し、マスコミとも連携して広くPRします。また、お弁当広場や記念写真スポットなどを提供していきます。



ズーボゲート等の飲食・物販施設

(3) 清潔で快適な空間づくり

トイレや休憩施設などのサービス施設は適正な配置や規模で計画するとともに、天候の影響を受けない空調設備を備える休憩施設の設置など、寒い冬の日にも、暑い夏の日でも楽しめるように検討します。また、清掃などの日常管理も徹底します。煩雑で分かりにくい園内案内についても総合的に整備します。



休憩施設の整備

(4) バリアフリーの空間づくり

ユニバーサルデザインを取り入れながら、段差の解消に努めるとともに、多様な移動手段の導入を検討します。また、モデル観覧ルートの設定など、適切な園内情報の提供も行います。

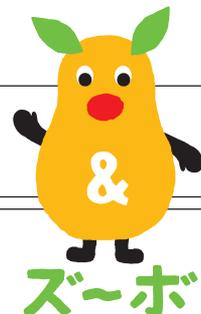


園内移動用カートの導入

管理運営の方向性

「おもてなしの心を持ちお客さまを迎える」とともに、経営感覚をもった管理運営を進めていきます。

<p>(1) 来園者サービスと 広報宣伝の充実</p>	<p>イベント、飲食・物販事業などを魅力的なものにするるとともに、的確な情報案内に努めます。また、戦略的な広報宣伝も進めます。</p>
<p>(2) 安全で快適な 施設の提供</p>	<p>園内の諸施設を安全、安心、快適に利用できるよう保守点検や維持修繕などを総合的かつ経済的に管理します。</p>
<p>(3) 市民等の参加や 協働の推進</p>	<p>管理運営を行う行政と市民や企業の垣根をできる限り払拭し、市民や企業などが主体的に参加でき、相互にメリットが得られる管理運営の仕組み作りを図ります。</p>
<p>(4) 財政基盤の確立</p>	<p>新たな財源の確保を検討し、収入の増加や健全な財政基盤の確立を図ります。</p>
<p>(5) 運営体制の整備</p>	<p>来園者サービスなどに柔軟で効果的に対応できる体制に改善し、環境教育などの根幹業務においても体制を強化するよう検討します。</p>



楽しみながら学ぶ

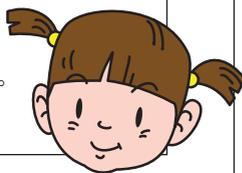
来園者と動植物園関係者が一緒になって、生態系に関する問題等を中心に、生きた動物や植物を素材にして楽しみながら学んでいただくことで、環境問題を身近なものとして感じていただきます。



サマースクール（体験プログラム）

環境教育の方向性

- ◆ 子どもから大人まで幅広い層に対応します。
- ◆ 段階に応じたステップアップを図っていきます。
- ◆ 再生プランで生まれ変わる施設を生かします。
- ◆ 様々な機関や組織と連携します。



プログラムの概要

- **アプローチプログラム**
動物や植物とのふれあい等、気軽に参加できる内容です。
- **体験プログラム**
実際に身体を動かすなど、体験を通して学びます。
- **ガイドプログラム**
動物や植物を見ながら解説を聞いて学びます。
- **講座プログラム**
大学等との連携による講義やワークショップを開催します。
- **映像利用プログラム**
動植物の生態などを映像によって学びます。
- **セルフガイドプログラム**
教材等を用いて、自らが園内をまわりながら学んでいきます。
- **ハンズオン利用プログラム**
解説板や音声案内を通して学びます。

野生生物を守る

繁殖・保存計画を立て、動植物の繁殖・保存活動を積極的に推進するとともに、生息地での保存活動にも貢献していきます。そのため、研究機関や保護団体との連携を深め協力体制を整備していきます。

今後の取組み

- ◆ 人工授精や精子・卵子の保存の技術を他園との協力をもとに確立し、実践していきます。
- ◆ 全国の動植物園等と連携し、飼育動物や栽培植物の長期的な繁殖・保存プログラムを確立します。
- ◆ 国外の動物園・植物園との交流を積極的に進め、動植物の交換に関する情報を収集します。



希少種の繁殖：アジアゾウ



希少種の繁殖：ツシマヤマネコ



調査植物：マメナシ



調査植物：
シラタマホセクサ



調査植物：シデコブシ

調査研究を行う

園で保有する動植物の形態、生理、生態などのほか、希少動植物の保存、動物福祉等に関しても調査研究を行っています。これらの調査研究の推進のため、大学などの研究機関等との連携をしています。

調査研究の成果を学会等で発表するだけでなく、広く来園者等にも伝えながら、動物飼育技術の向上、種の保存活動の充実を図っていきます。

今後の取組み

- ◆ 講演会、研究会を積極的に開催します。
- ◆ 研究機関との連携を強化します。
- ◆ 人工繁殖の拡大を検討します。



オオサンショウウオの生息地調査



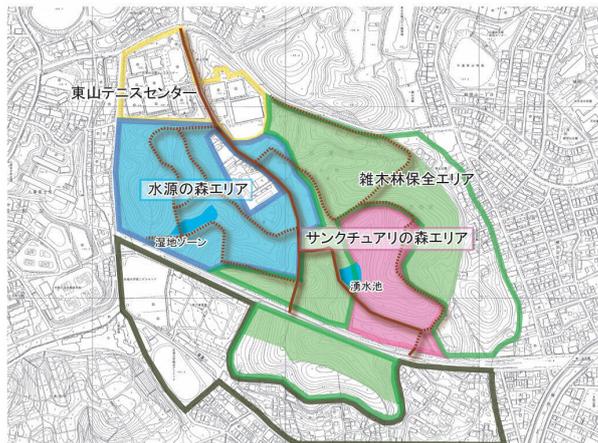
メダカ新種の発見（ティウメダカ）



近代植物学草創生期の状況を伝える、伊藤圭介の日記の解読研究を行い、現在第30集までを刊行（2025年3月現在）

東山の森づくり

東山の森づくりは、市民との協働による雑木林や湿地などの保全・再生活動や環境学習・体験学習等を実施していきます。「うるおいの森」においては、森づくり活動団体と連携し、市民参加による天白溪湿地の再生と雑木林の保全を図っていきます。また、「くらしの森」、「いのちの森」についても、市民協働による森づくりを推進していきます。



うるおいの森

<p>くらしの森</p>	<p>人のくらしと自然が共生する里山を再生し、豊かな自然と多様な生き物の生息空間を確保すると共に、里山の生活文化や身近な自然との関わりを体験・体感することによって、自然環境に対する意識の向上を目指します。</p>
<p>ふれあいの森</p>	<p>平和公園と東山公園の重要な結節点であり、人と生き物が出会う場所として樹林地の復元や、原っぱの整備を行います。</p>
<p>いのちの森</p>	<p>生物多様性の回復をテーマとして、植樹により再生する森や保護しながら観察をする森、手入れをして保全する森などをつくり、生き物や生態系に関する環境学習の場とします。</p>
<p>うるおいの森</p>	<p>かつての天白溪の豊かな自然を目指し、起伏に富んだ地形を生かしながら、散策や自然観察の場として雑木林を保全するとともに、市内では貴重となった湿地や湧水池を再生します。</p>



「いのちの森」での竹の侵食を抑制し雑木林を保全する作業



「うるおいの森」での天白溪湿地の復元作業



企画・編集

名古屋市緑政土木局 東山総合公園再生整備課
〒464-0804

名古屋市千種区東山元町3-70

電話 (052) 782-2111

FAX (052) 782-2140

URL <https://www.higashiyama.city.nagoya.jp>

発行年月 2025年(令和7年)3月

この報告書は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。